

# ワオ高等学校 2024(令和6)年度 自己点検・評価報告書

## ① 学校の概要

ワオ高等学校は、2020（令和2）年12月に学校法人ワオ未来学園を創立し、2021（令和3）年4月にオンラインハイスクールとして岡山県岡山市に開校した広域通信制高校である。「豊かな教養と正しい心をもって自らの幸福を求め、社会に貢献する人を育てる」ことを使命とし、従来の偏差値偏重から脱却した新たな価値観を生む教育を目指している。この使命に基づき、学校設置科目の「教養探究」で哲学・科学・経済を必修とし、対話を中心とした新しい学びを展開している。

2024（令和6）年度は、オンラインの学校として開校したワオ高校の岡山本校に、初の「通学コース」が誕生。母体が同じ個別指導Axisと連携し、塾と連携して大学進学や学び直しをサポートする「個別指導コース」も始まり、オンラインと通学の良さを両方取り入れた学びができる形へと進化を果たした。

2期生の進路も、1期生に引き続き大学や専門学校など進学希望者が多く、留学コースから海外大学へ進学する生徒は初となるマレーシアの大学を選択した。学校運営としては、生徒からの発案で「生徒会」が正式に発足し、生徒自身で立ち上げるプロジェクトも活発化したほか、部活動や個人活動で全国大会に出場する生徒も増えた。学校としては生徒一人ひとりの個性を大切に、充実した高校生活を送れるように努めている。

## ② 2024（令和6）年度の概要

バーチャルキャンパスを日々の活動の核としつつ、岡山本校に通学コースができたことで、スクーリング時のリアルイベントなどが充実し、生徒同士がオンラインとリアルで集い対話する場面が増えた。生徒会の発足も、学校生活の充実を後押しした。

### （1）岡山本校に「通学コース」開講

ワオ高校岡山本校に「通学コース」が開講。週1日～5日で自由に通うことができるスタイルで、専属コーチがレポート学習をサポートしながら、オンライン英会話やプログラミング学習など独自の学習コンテンツを提供。さらに生徒一人ひとりの「好き」を探究する学習にも取り組んでいる。また生徒発案での、スクーリング時などに合わせての校外学習や季節イベントなども多数企画した。

### （2）起業コースが株式会社ブルースプリング設立

起業コースの生徒が2024年度中にクラウドファンディングで集めた資金を活用し、中高生の居場所となるオンラインフリースクール事業を行う株式会社ブルースプリングを設立。この事業運営を通じた実践的な学習に取り組んだ。

### （3）多彩な分野で全国大会出場

卓球部が全国定時制通信制の全国大会に岡山県の個人戦代表として出場。国際宇宙ステーション「きば

う」にまつわるロボットプログラミング大会に数少ない高校生として出場した生徒もいたほか、独学で中国語を学んだ生徒が中国語スピーチの全国大会で3位に入る快挙を果たした。また、総合的な探究の時間の成果発表として取り組んだ「クエストカップ」の全国大会に2・3年生の代表チームが出場した。

#### **(4) さとのば大学×ワオ高校のコラボスタディツアーの実施**

さとのば大学とコラボレーションし、ワオ高校独自のプログラムとしてスタディツアーを初実施した。「地域探究ツアーin 京都」と銘打って、3泊4日で京町家暮らしをしながら社会課題に触れる体験を行った。

#### **(5) 生徒会発足・岡山本校&バーチャルキャンパスで初の「ワオ高祭」を開催**

生徒発案で生徒会が発足。その最大イベントとして実行委員を募って企画した学園祭「ワオ高祭」を岡山本校とバーチャルキャンパスでハイブリッド開催した。企画・運営をはじめ、グッズ制作や販売などもすべて生徒主体で行い、地域への広報や取材対応なども生徒自身で担った。

#### **(6) トビタテ！留学 JAPAN で優良賞受賞**

官民協働による留学促進キャンペーン「トビタテ！留学 JAPAN」に応募し、ドイツのプレーパーク事業を視察・研究した生徒が、留学体験の成果発表の場で優良賞を受賞した。

#### **(7) 岡山県岡山市の能舞台で卒業式を開催**

2期生を送りだす卒業式を、3月に岡山県岡山市の能楽堂ホール tenjin 9で開催した。能舞台というハレの場所で、卒業生たちは未来への第一歩を踏み出した。

### **③ 自己点検・評価の総評と課題**

本校は、2021年度の開校以降、学校関係諸法令を遵守して学校運営を行うべく、教員配置や制度設計、教育ツールの整備、オンライン環境の整備などに取り組んできた。

2024年度は、学習システムなどを改良しつつ生徒がより効果的に自学自習ができるシステムを整え、教職員がバーチャルキャンパスで密な学習指導が行える環境づくりに努めた。

生徒会が発足するなど、本校が力を入れている対話型の学習を生徒主体でより充実させることができているが、オンラインでの生徒指導や学習相談ではさらに充実させられる余地があり、教職員の指導力アップが望まれている。教職員相互の意見交換によるスキルアップや外部研修の積極的な活用、生徒・保護者からの評価を積極的に受け止め、さらなる学習環境の向上を図っていく。

#### **(1) 評価項目と基準の設定について**

高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン等を参考に、評価項目と基準を設定している。

#### **(2) 評価について**

A～C の 3 段階で評価する。

A：評価基準を十分に満たしている

B：評価基準を満たしているがより改善の余地がある

C：評価基準を満たしていない

※自己評価の各項目と評価基準に対する詳しい評価結果は、別表を参照。

#### ④ 学校関係者評価

学校関係者評価として、生徒、保護者に対しアンケートを実施している。学習システムや学校環境を改善しながら学校運営をしていく中で、9 割を超す生徒が「とても満足」「少し満足」と回答した。一方で保護者の満足度は 8 割強にとどまっており、学校改善への意見を真摯に受け止め、今後も引き続き改善をはかっていく必要がある。

ワオ高校独自の学びについては、生徒・保護者共に 9 割超が「将来に役立つ」と回答するなど、引き続き高い期待が寄せられており、こうした良い部分は引き続き発展させていかなければならない。

	生徒	保護者
学校への満足度	91.5%	83.7%
ワオ高の学びは将来に役立つと思う	94.4%	90.2%

生徒・保護者アンケートの詳しい結果は別表を参照。